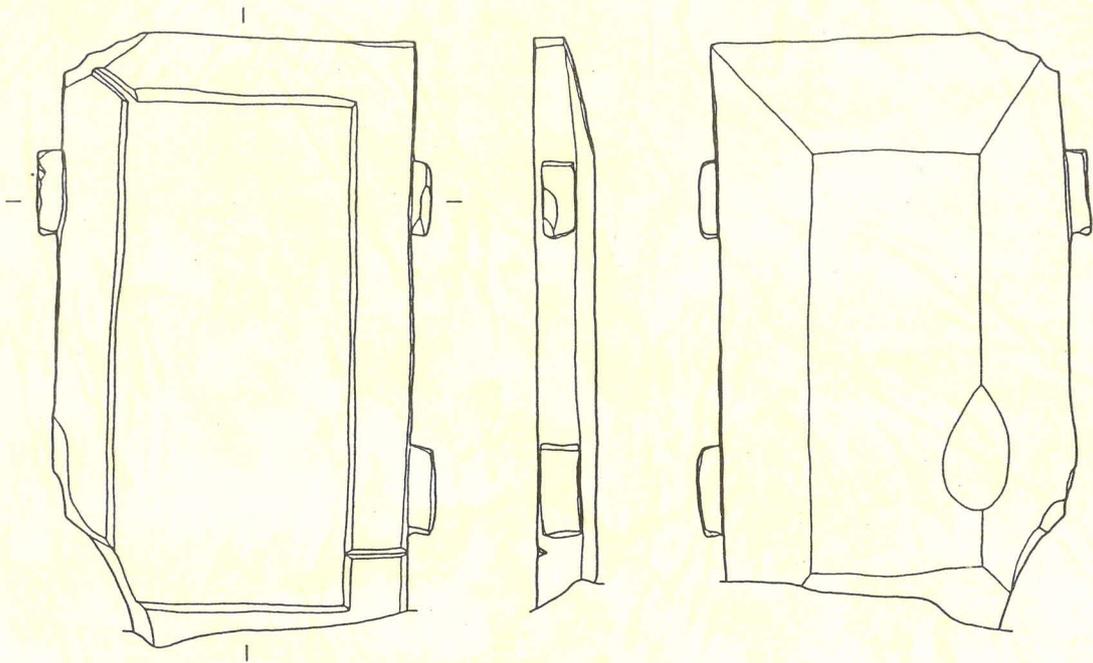


# 太子町の石棺Ⅱ

— 太子町内石造物調査Ⅲ —

付載 御津町朝臣出土の環状把手付舟形石棺



1998年4月

太子町教育委員会

# 太子町の石棺Ⅱ

—太子町内石造物調査Ⅲ—

付載 御津町朝臣出土の環状把手付舟形石棺

1998年4月

太子町教育委員会



## 例言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町佐用岡字宮ノ本に所在した転用石棺材及び太子町内に所在する石棺についての調査報告である。
2. 本書は、太子町文化財資料第28集をもとに、新資料を追加し、改訂したものである。
3. 石棺の調査・実測は、三村修次、田村三千夫、尾野幸男、首藤 聖、海野浩幸が行なった
4. 本書の作成にあたっては、藤井 実氏、龍野市教育委員会、御津町教育委員会の協力を得た。

## 目次

1 はじめに .....	1
2 石棺材の概要 .....	1
3 まとめ .....	9
4 付載 御津町朝臣出土の環状把手付舟形石棺 .....	10

## 挿図目次

第1図 転用石棺材位置図 .....	1
第2図 石棺実測図 1 .....	3
第3図 石棺実測図 2 .....	4
第4図 石棺実測図 3 .....	5
第5図 石棺実測図 4 .....	6
第6図 石棺実測図 5 .....	7
第7図 石棺実測図 6 .....	8
第8図 御津町朝臣出土環状把手付舟形石棺実測図 .....	11
第9図 太子町周辺市町所在石棺及び主要古墳群分布地図 .....	13

## 表目次

表 1 太子町内及び周辺市町石棺所在地地名表 .....	12
------------------------------	----

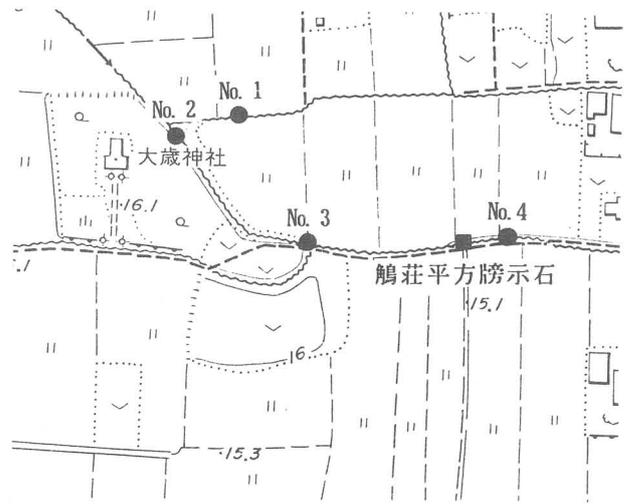
## 図版目次

図版 1 上 宮ノ本石棺材 1	図版 4 上 黒岡神社境内石棺 2
中 宮ノ本石棺材 2	中 斑鳩寺境内石棺 1
下 宮ノ本石棺材 2 加工部分	下 斑鳩寺境内石棺 2
図版 2 上 宮ノ本石棺材 3 転用風景	図版 5 上 旧硯橋転用石棺 1
中 宮ノ本石棺材 3	中 旧硯橋転用石棺 2
下 宮ノ本石棺材 3 加工部分	下 郷ノ谷 5 号墳出土石棺
図版 3 上 黒岡神社古墳玄室内石棺	
下 黒岡神社境内石棺 1	



## 1. はじめに

平成4年2月から3月にかけて実施した、埋蔵文化財分布調査において確認された太子町佐用岡字宮ノ本所在の転用石棺材4例について、太歳神社北東所在の2例(第1図 No.1・2)はすでに、『太子町文化財資料第28集』で「宮ノ本石棺材1・2」として報告した。今回、平方榜示石を挟んで所在する2例(第1図 No.3・4)の石棺材所在地点が、平成8年1月より実施されている町道斑鳩寺線改良工事の工事路線内にあたるため、同工事に伴う埋蔵文化財確認調査にあわせて実測調査を実施し、報告することにした。



第1図 転用石棺材位置図 (S=1/2500)

## 2. 石棺材の概要

今回、調査を実施した石棺材の転用目的は前の2例と同様、用水路の橋材として用いられていたものである。しかし、西側に所在の転用材と見られた遺物(第1図 No.3)については撤去時の調査の結果、石棺材では無いことが判明した。

今回『文化財資料第28集』に収録した遺物についても再度収録し、また、同集では割愛した遺物もあわせて収録することにした。

### 1 宮ノ本石棺1 (実測図 1-1)

組合式石棺底石あるいは組合式石棺小口石と考えられる。佐用岡太歳神社北東の用水路で橋材に転用されていた(第1図 No.1)。水路改修により撤去され、現在は太子町教育委員会で保管している。現状で長さ68cm、幅42cm、厚さ10cmを測る。一方の短辺側には2cmの低い段が形成されており、両長辺の端部を除く四面は平滑に仕上げられている。

### 2 宮ノ本石棺2 (実測図 1-2)

組合式石棺底石と考えられる。1の石棺材の約20m西で橋材に転用されていた(第1図 No.2)。水路改修により撤去され、現在は太子町教育委員会で保管している。現状で長さ78cm、幅35cm、厚さ16cmを測る。一方の短辺側には2cmの低い段が形成されている。加工されている面は平滑に仕上げられているが、反対面は未調整である。

### 3 宮ノ本石棺3 (実測図 1-3)

今回調査したもので、第1図でNo.4とある石棺材である。組合式石棺底石と考えられる。平方榜示石の東で橋材に転用されていた。現在は町道改良工事に伴い撤去されたため、太子町教育委員会で保管している。現状で長さ68cm、幅29cm、最大厚さ17cmを測る。短辺の一方には2cmの低い段が形成されており、加工されている面の反対側は未調整である。加工の様子は宮ノ本石棺材2とほぼ同様であるが、2ほど加工面の調整は平滑でなく、加工痕が残る。

### 4 郷ノ谷5号墳石棺1 (実測図 1-4)

家形石棺蓋の隅部の断片である。郷ノ谷5号墳発掘調査時に玄室内で検出されたもので、現在は太子町教育委員会で保管している。稜線部分には約2cmの段が形成されている。縄掛突起の有無については不明である。

#### 5 郷ノ谷 5号墳石棺 2 (実測図 1-5)

組合式石棺底石である。郷ノ谷 5号墳発掘調査時に玄室内で検出されたもので、調査後玄室内に埋め戻され保存されている。長さ 110cm、幅 35cm、厚さ 15cmを測り、短辺側には端から約 6cmのところ幅 10cm、深さ 3cmの溝が切られている。加工されている面は平滑に仕上げられているが、裏面は未調整である。その規模から何枚か継ぎであったと考えられる。

#### 6 黒岡神社古墳玄室内石棺 (実測図 2)

組合式家形石棺で、玄室の中央に側壁と並行に置かれており、羨道側の小口石材は失われているが玄室内で原位置を留めている。蓋石は長さ 218cm、縄掛突起を含めた幅 124cm、厚さ約 20cmを測り、内面には長さ約 190cm、幅約 80cm、最深部で 3cmの内削が見られる。棺身は長側石を小口石で挟み込む組み方で、内法は幅 92cm、深さ 74cm、長さ約 190cmを測る。縄掛突起は石棺全体の風化が進んでおり、不鮮明で判然としないが、長辺側に 2個ずつ造り出されているようである。

#### 7 黒岡神社境内所在石棺 1 (実測図 3)

家形石棺蓋石である。黒岡神社古墳羨門横に「藤原貞國椽塚」と刻まれて建てられている。

この石棺材はもと川島集落の北西を南流する「すみだ川」に架かっていた「硯橋」(太子町川島字清水本の菓子店「虎屋本店」北西に位置し、現在は国道 2号線敷きとなっている。)の橋材に転用されていたもので、昭和の初め頃現在地に移され、石碑として再転用されたものである。下部は埋め込まれているため現状で長さ 200cm、縄掛突起を含めた幅 132cm、厚さ 16cmを測り、頂部平坦面は長さ 138cm、幅 57cmを測る。この平坦面の数値から勘案すると全長 210cmに復元される。縄掛突起は長辺の端部に 2個ずつ造り出されており、長さ 30cm、幅 13cm、高さ 9cmを測る。内面には長さ 172cm、幅 79cm、深さ 3cmの内削が施されている。また、内面には 58箇所に杯状穴が穿たれている。

#### 8 黒岡神社境内所在石棺 2 (実測図 4-1)

組合式石棺底石である。黒岡神社古墳羨門横に 3個に破損した状態で置かれている。

上記の蓋石材と同じ経緯で現在地に移されたものである。長さ約 201cm、幅 105cm、最大厚さ 20cmを測り、長辺側 14cm、短辺側 14~16cmの間隔をあけて長さ 171cm、幅 77cm、高さ 2cmの段が作り出されている。裏面は未調整のようである。

#### 9 東保山 3号墳石棺蓋石 (実測図 4-2)

箱式石棺の蓋石である。長さ 165cm、幅 83cm、厚さ 15cmを測り、外面は不明瞭ながら家形に加工されている。内面には、ちょうど棺身と接する部分に幅 10~15cm、深さ約 3cmの溝が切られている。発見時、内面には朱が付着していた。

#### 10 斑鳩寺境内所在石棺 1 (実測図 5-1)

家形石棺蓋石で、2個に破損している。長さ 197cm、幅 98cm、厚さ 22cm、頂部平坦面の長さ 165cm、幅 56cmを測る。内面には不明瞭な内削が施されており、長さ約 143cm、幅約 50cm、最深部 4cmを測る。縄掛突起は有しない。

#### 11 斑鳩寺境内所在石棺 2 (実測図 5-2)

刳拔式石棺身である。上半部を欠損している。また、残存する小口側に幅 9cm、深さ 3cmの溝が切られている。長さ 157cm、幅 58cm、高さ 50cm、内法は幅 43cm、深さ 22cmを測る。

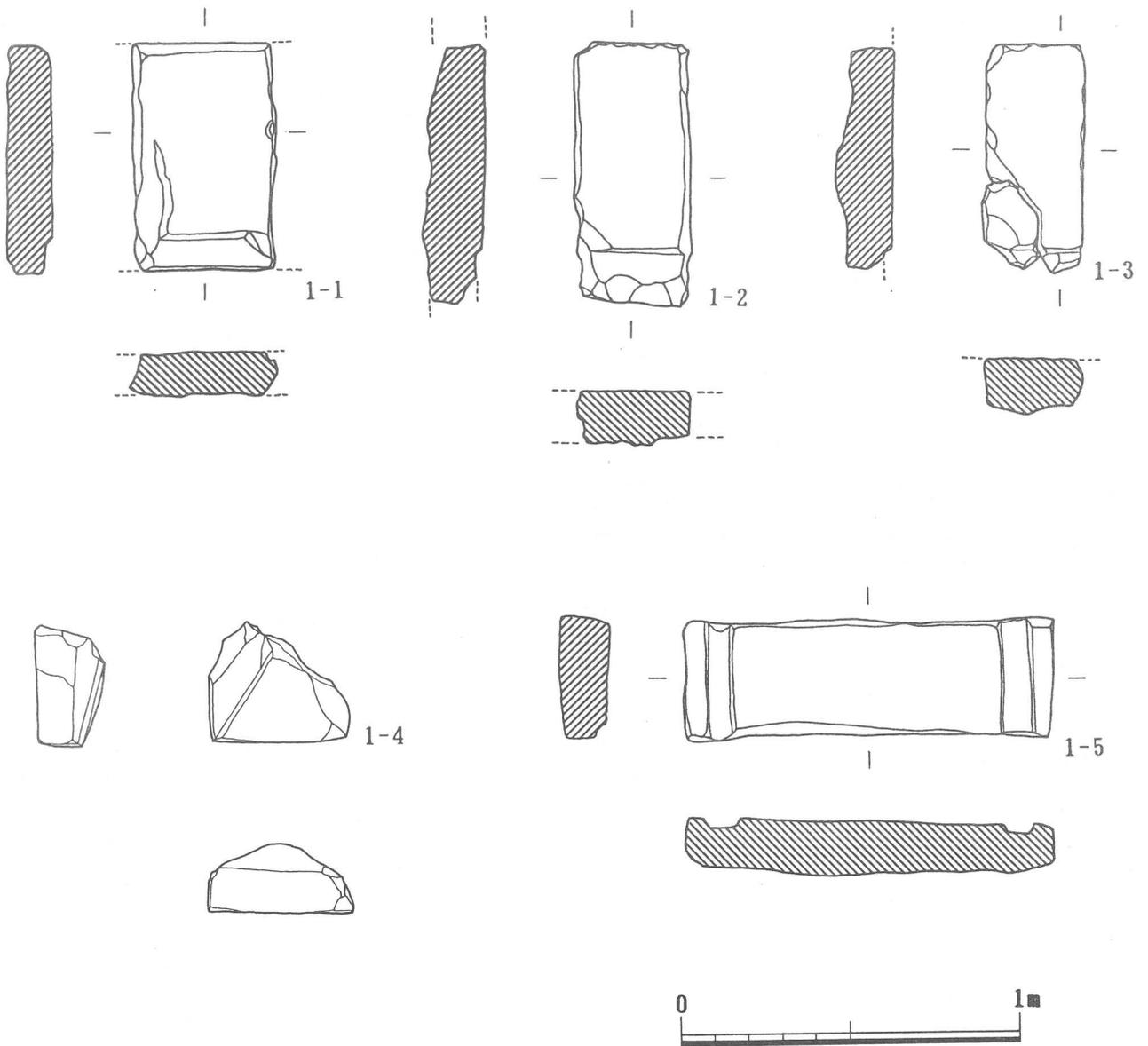
蓋石の接する面は比較的平滑に調整されているが、他の面は加工痕が残る。

12 旧硯橋転用石棺 1 (実測図 6-1)

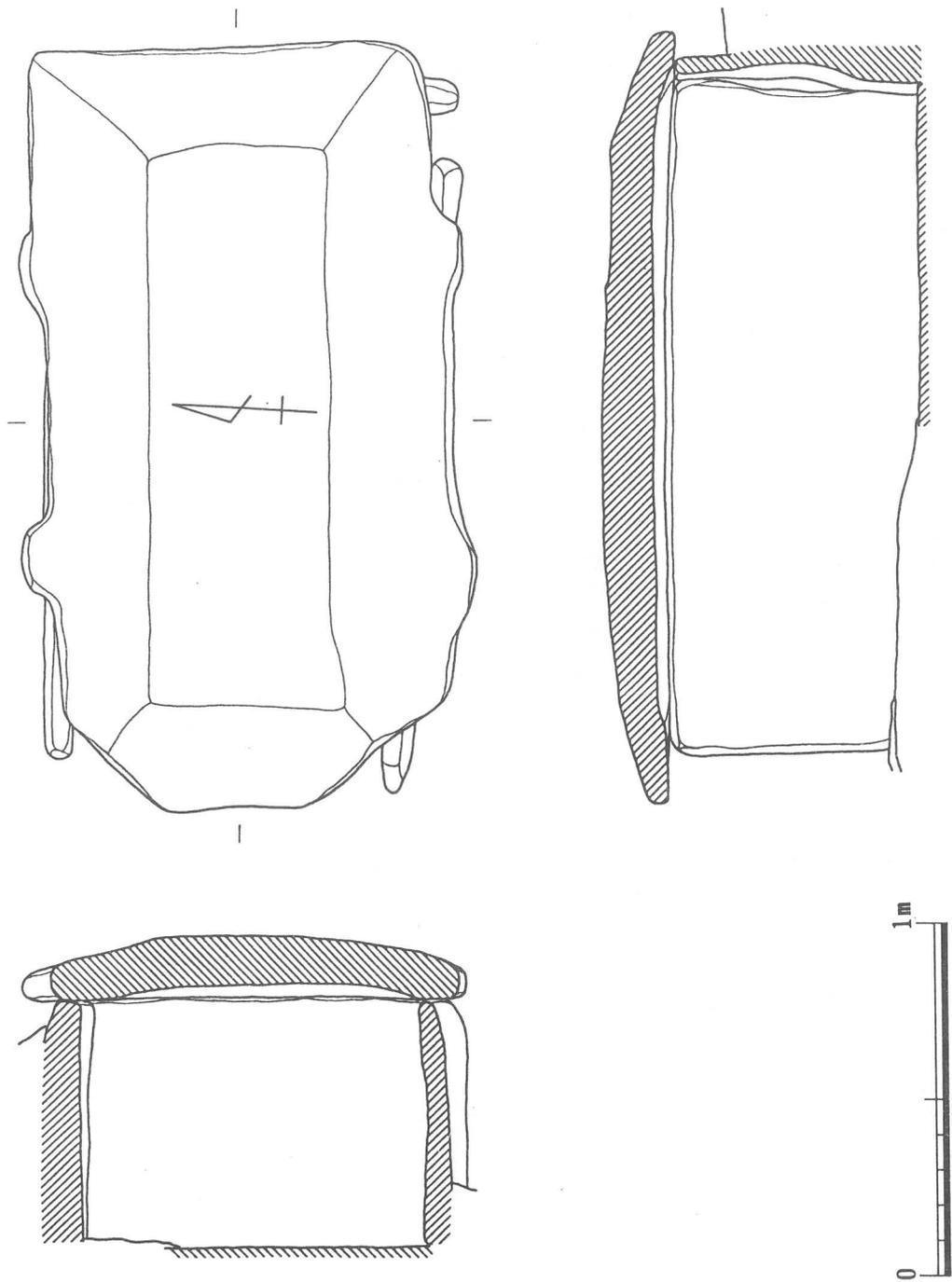
家形石棺蓋石である。斑鳩寺仁王門の南110mに架かる硯橋の橋材に転用されていた。現在は太子町教育委員会が保管している。長さ122cm、幅110cm、厚さ15cm、頂部平坦面の長さ110cm、幅82cmを測る。内面には幅11cm、深さ2cmの溝が各辺にそって切られており、内法で長さ103cm、幅72cmを測る。一方の短辺の断面は平滑に仕上げられており、二枚継ぎであった可能性が高く、二枚継ぎとしたときの全長は244cmに復元される。縄掛突起は有しない。外面には9箇所杯状穴が穿たれている。

13 旧硯橋転用石棺 2 (実測図 6-2)

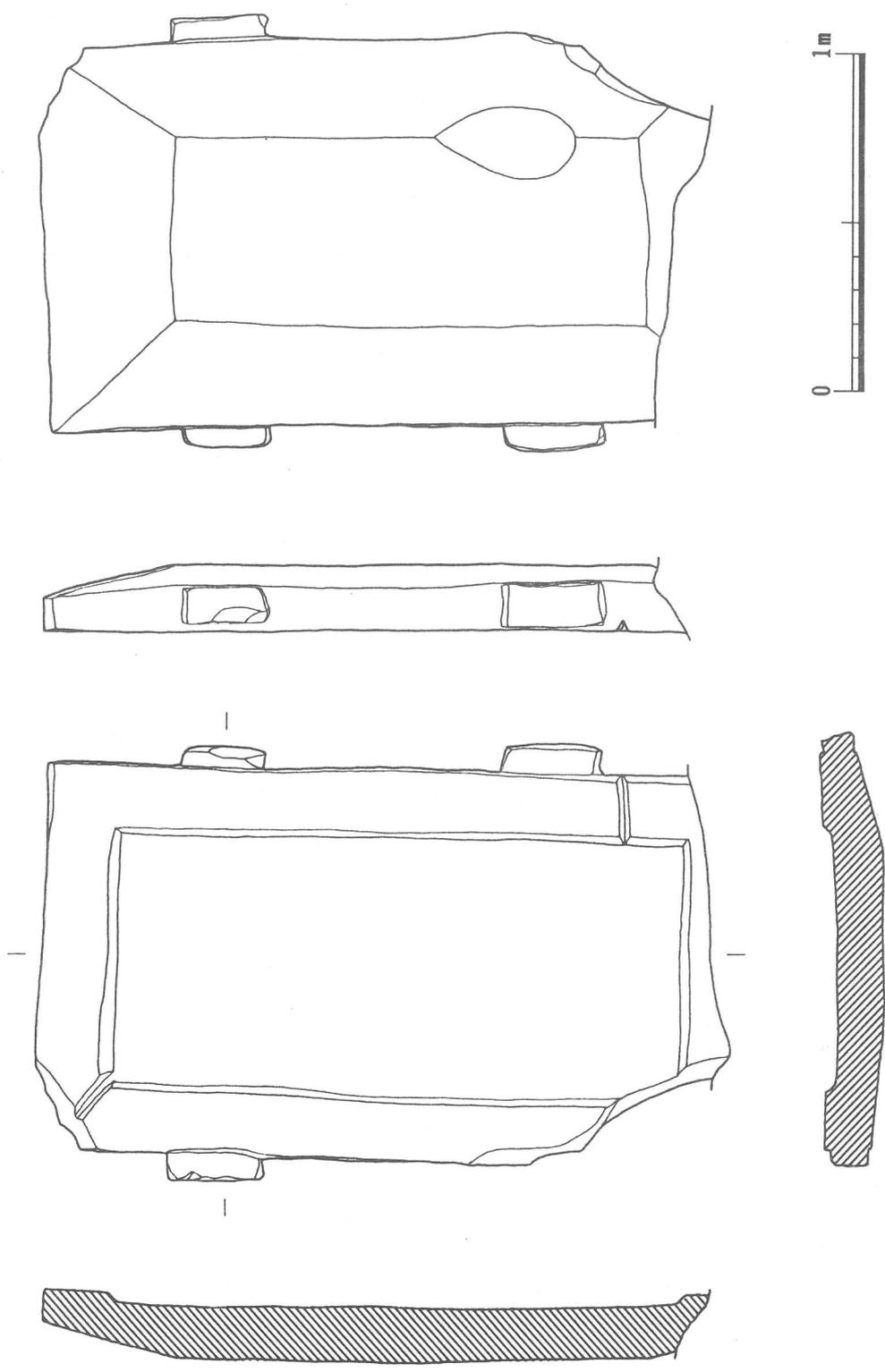
組合式石棺底石と考えられる。硯橋の橋材に転用されていた。現在は太子町教育委員会が保管している。現在最大長148cm、幅97cm、最大厚さ22cmを測る。裏面は未調整である。



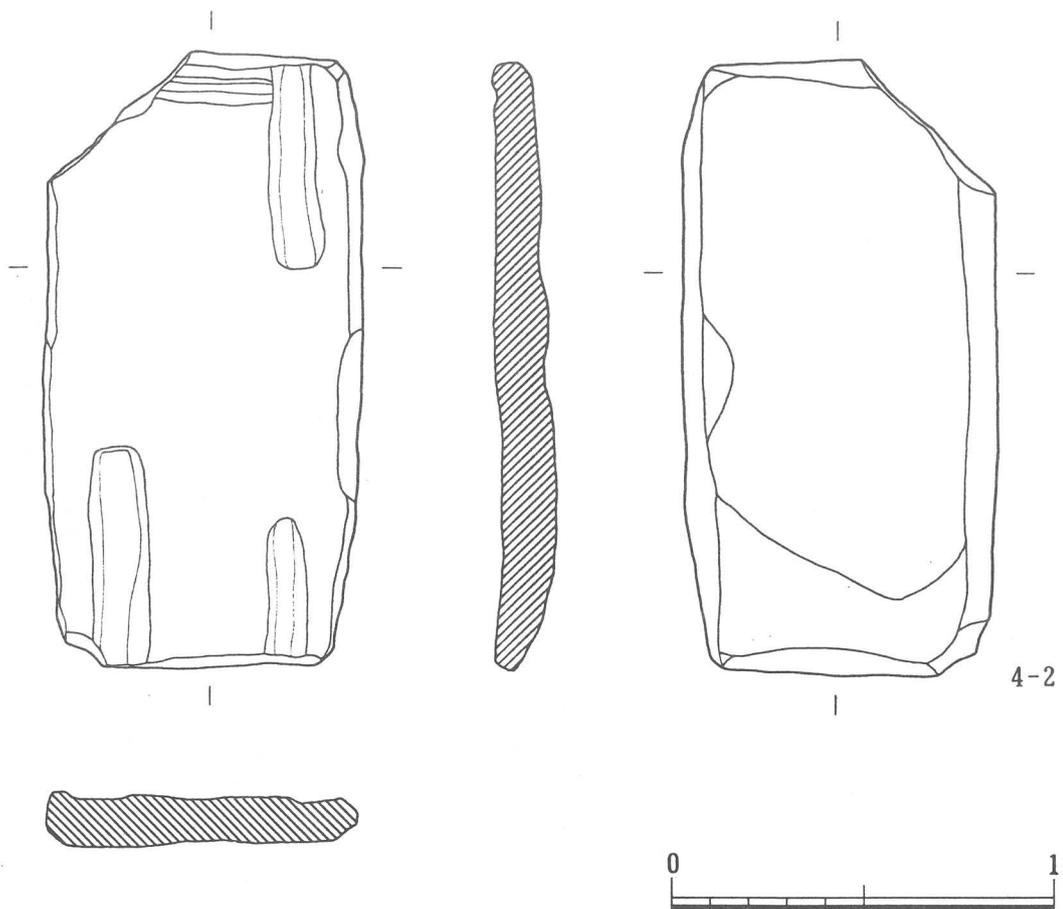
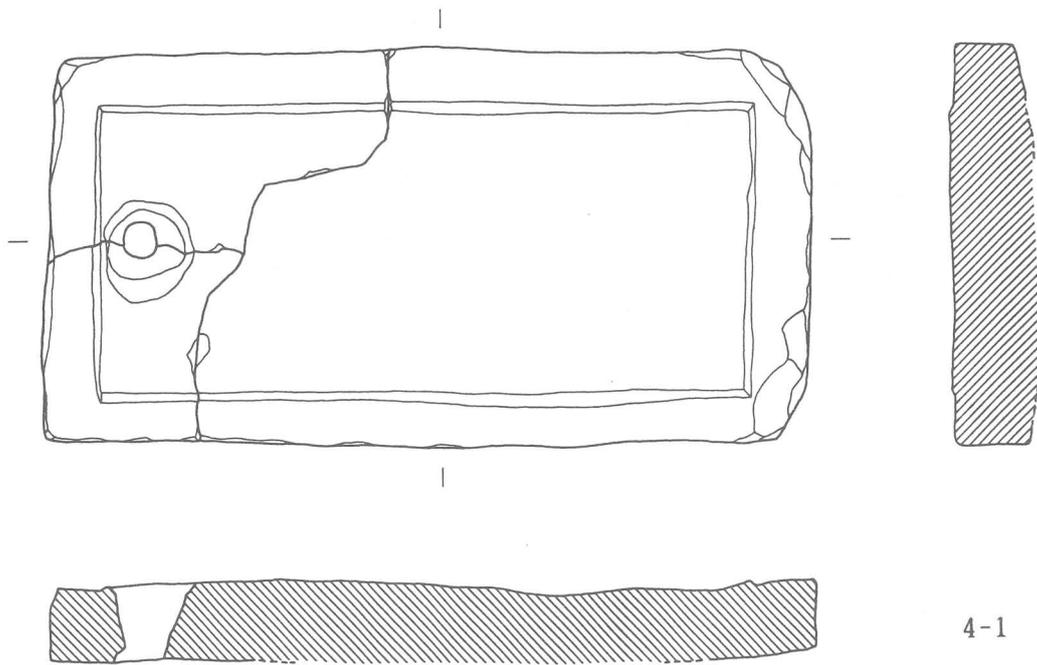
第2図 石棺実測図 1



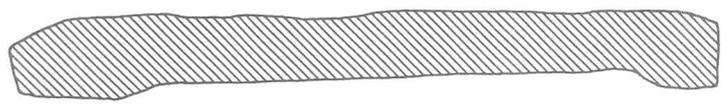
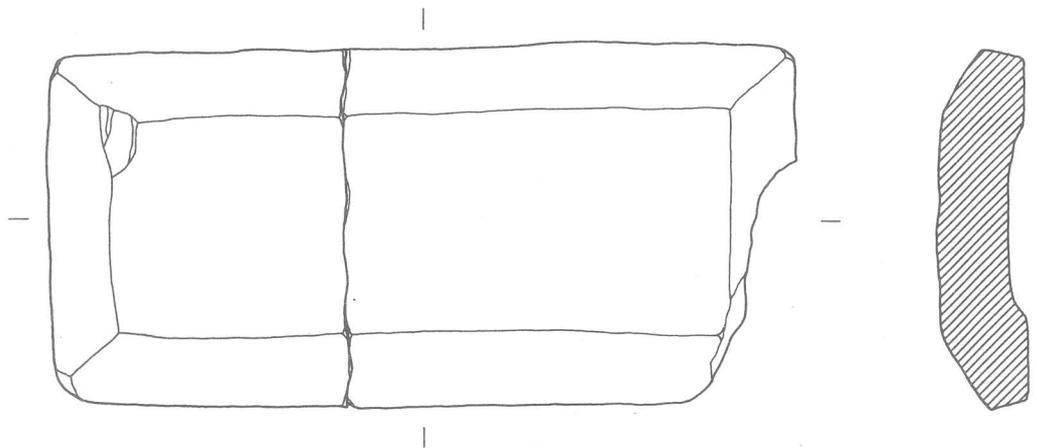
第3图 石棺实测图 2



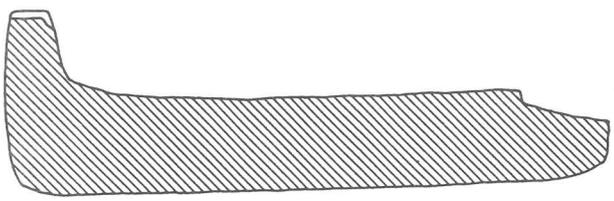
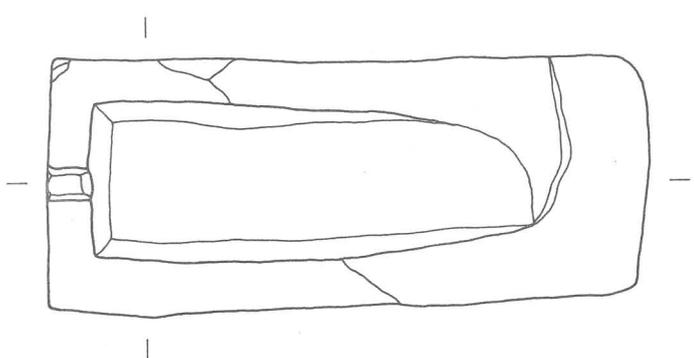
第4図 石棺実測図 3



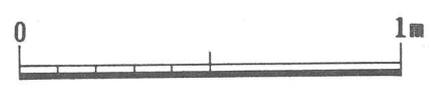
第5図 石棺実測図 4



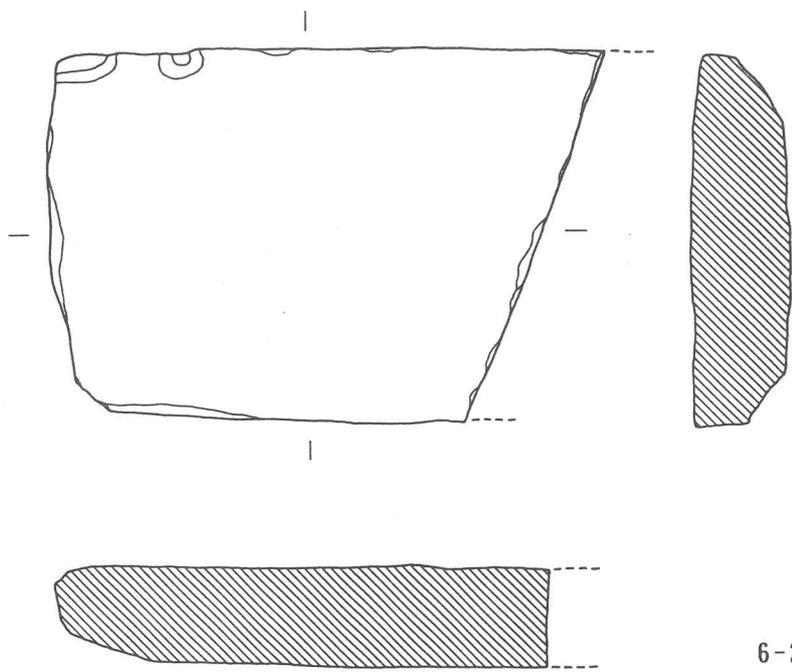
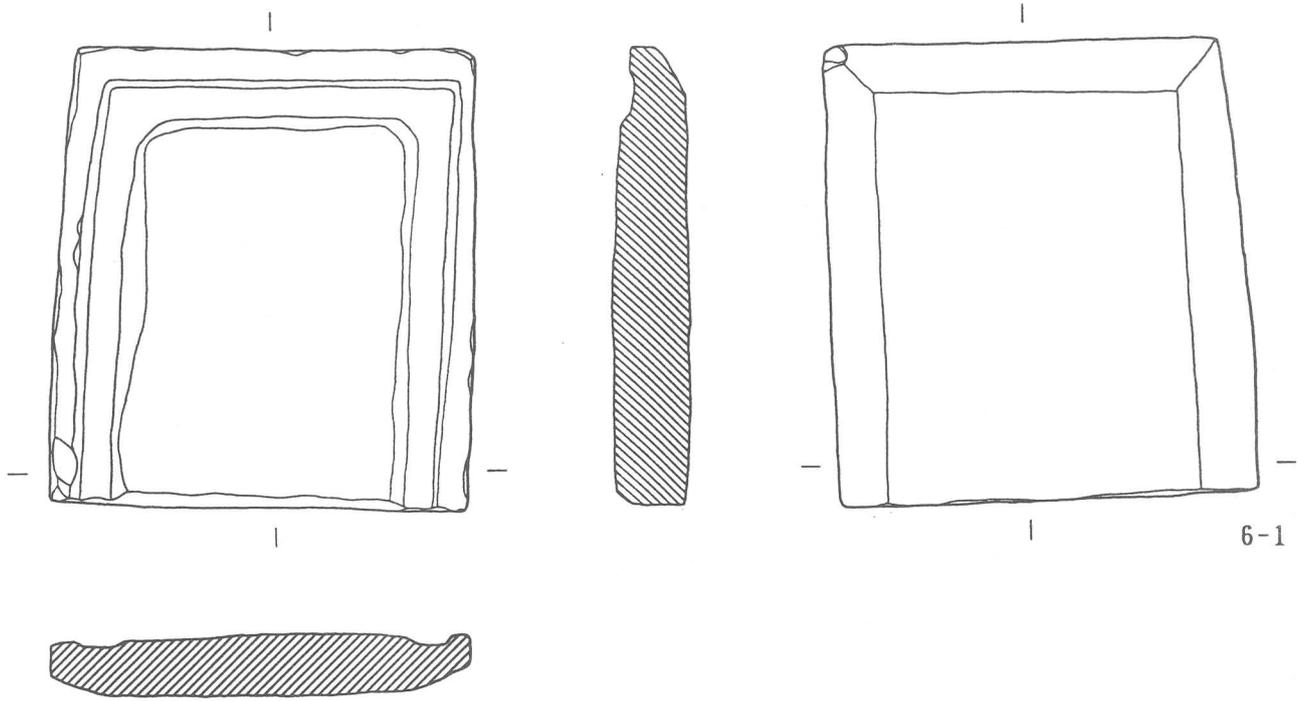
5-1



5-2



第6図 石棺実測図 5



第7图 石棺实测图 6

#### 4. まとめ

今回調査を実施した資料をあわせて、現在町内で確認されている石棺は14例を数えことになった。いまだ少ない資料からではあるが、町内で確認されている石棺の特長として、石材はすべて龍山石と呼ばれる流紋岩質溶結凝灰岩製である。様式では組合式がほとんどで、刳拔式は一例しか確認されていない。蓋石材はいずれも扁平で、頂部平坦面が占める割合が大きい。底石材は両側石が乗る部分に浅い段を形成する。黒岡神社古墳と郷ノ谷5号墳の2例を除いて、二次的に他の用途に転用されている。分布状況は太田黒岡神社、斑鳩寺、佐用岡太歳神社周辺に集中していること等が上げられる。

町内に所在する後期古墳の数からすると、現在確認されている石棺の占める割合は少ないものであるが、今後の調査でさらに資料の増加することが期待される。

#### 参考文献

- 間壁忠彦・間壁葎子「石棺研究ノート4」倉敷考古館研究集報 第12号 1976  
龍野市「考古学からみた龍野」龍野市史第1巻 1978  
龍野市「龍野市とその周辺の考古資料」龍野市史第4巻 1984  
姫路市教育委員会「『朝日山周辺』をたずねて」文化財見学シリーズ12 1984  
新宮町教育委員会「市野保裏山1号墳・上笹古墳群」新宮町文化財調査報告 8 1987  
姫路市教育委員会「『太市の里』をたずねて」文化財見学シリーズ21 1988  
太子町「考古学からみた太子」太子町史第3巻 1988  
揖保川町教育委員会「埋蔵文化財分布地図」揖保川町文化財報告書V 1988  
太子町教育委員会「鵜地区における考古学的調査の概要『鵜地区の石棺』」  
播磨国鵜荘現況調査報告II 1989  
太子町教育委員会「東南・東保・東出地区における考古学的調査の概要『東保山古墳群』」播磨国鵜荘現況調査報告III 1990  
新宮町教育委員会「埋蔵文化財分布地図」新宮町文化財報告15 1992  
御津町教育委員会「御津町埋蔵文化財分布調査報告書」御津町埋蔵文化財報告書 3 1997

## 付載 御津町朝臣出土の環状把手付舟形石棺

1958年（昭和33）7月に御津町朝臣字上ノ山で貯水場建設工事中に発見されたものである。

埋納されていた古墳の墳丘や内部施設については不明であるが、石室内には安置されず、直接封土中に納められていたと考えられる。また、発見時周辺には、扁平な板石が散乱し、板石の一部には鉄錆の痕跡があったと報告されている。現在は御津町立郷土資料館に保管展示されている。

石棺は現存長 325cm、環状把手を含めない長さ 294cm、最大幅97cm、最小幅75cm、最大高54cm、最小高51cmを測り、先すばまりな平面型を呈する。断面は屋根形を呈し、頂部には幅10cmの狭い平坦面を有する。また、傾斜部とその下の垂直部との境には底辺7～10cm、上辺4～7cm、高さ3～5cmの埴輪のたが状の突帯が巡る。両小口には環状の縄掛突起が水平に造り出されているが、一方は欠失しており、現在残る狭い小口側も半分が失われている（発見当初の写真及び実測図では現在残る狭い小口側の縄掛突起は完存していた）。

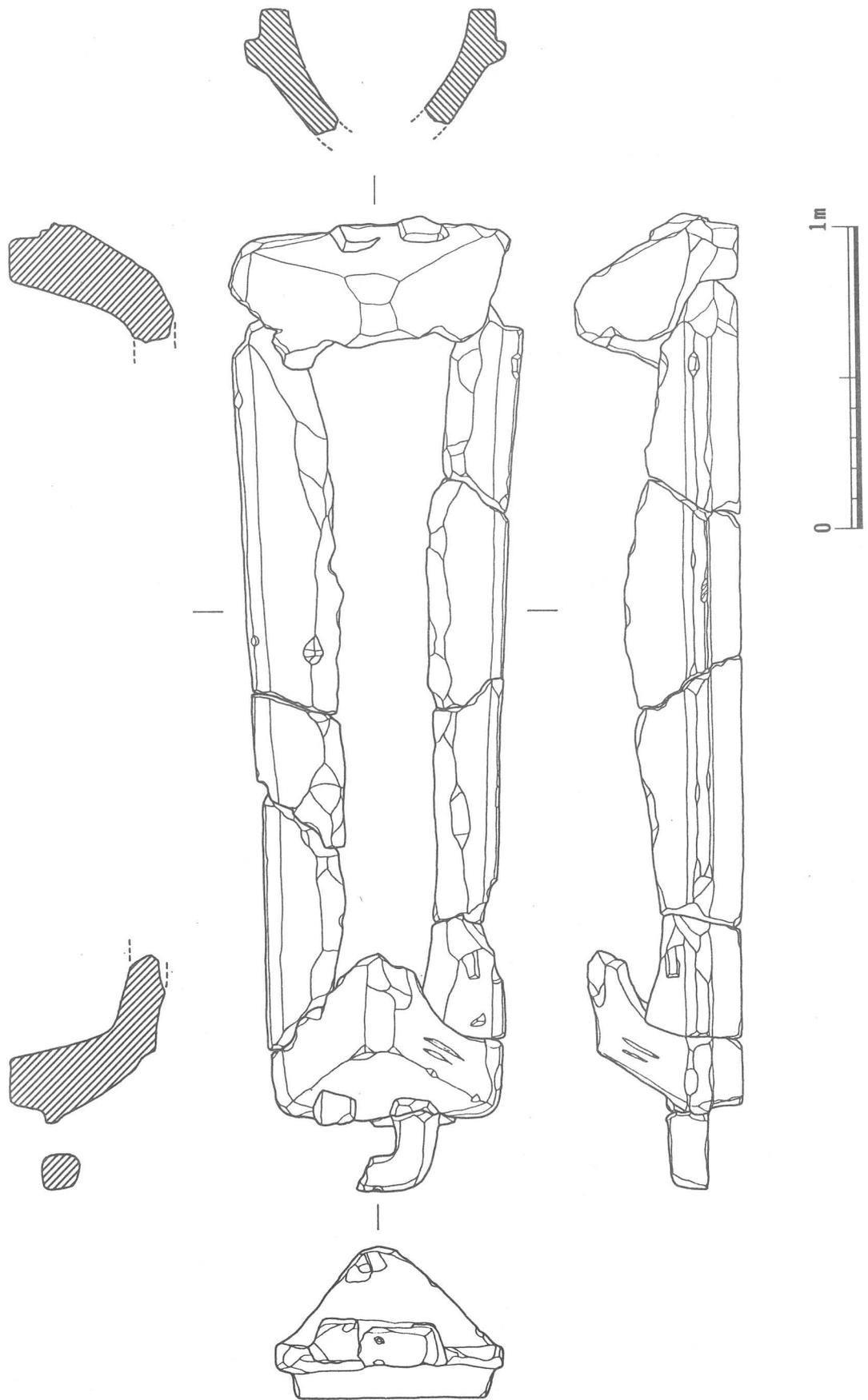
内法は底辺部分で長さ 256cm、最大幅76cm、最小幅55cm、最大高41cm、最小高39cmを測り、内側断面は胴張りした三角形を呈する。

石材は第八期阿蘇溶結凝灰岩製で、黒褐灰色を呈する。調整は外面では一部に加工痕が認められ、内面では平滑に仕上げられているが、部分的に線状の加工痕が残る。また、内面には赤色顔料の塗布が認められる。

最期に今回、同石棺の資料作成にあたり快く協力して頂いた御津町教育委員会の芝 香寿人氏には記して感謝する次第である。

### 参考文献

- 上田哲也・増田重信「播磨御津町中島出土の特殊家形石棺」古代学研究 26 1960  
間壁忠彦・間壁葎子「石棺研究ノート4」倉敷考古館研究集報 第12号 1976  
高木恭二「環状縄掛突起を有する石棺について—特にその石棺材の産地をめぐって—  
（1）」熊本史学 第53号 1979  
高木恭二「環状縄掛突起を有する石棺について—特にその石棺材の産地をめぐって—  
（2）」熊本史学 第53号 1980  
御津町教育委員会「御津町埋蔵文化財分布調査報告書」御津町埋蔵文化財報告書 3 1997  
御津町「考古学からみた御津町の原始・古代」御津町史 第3巻 1998



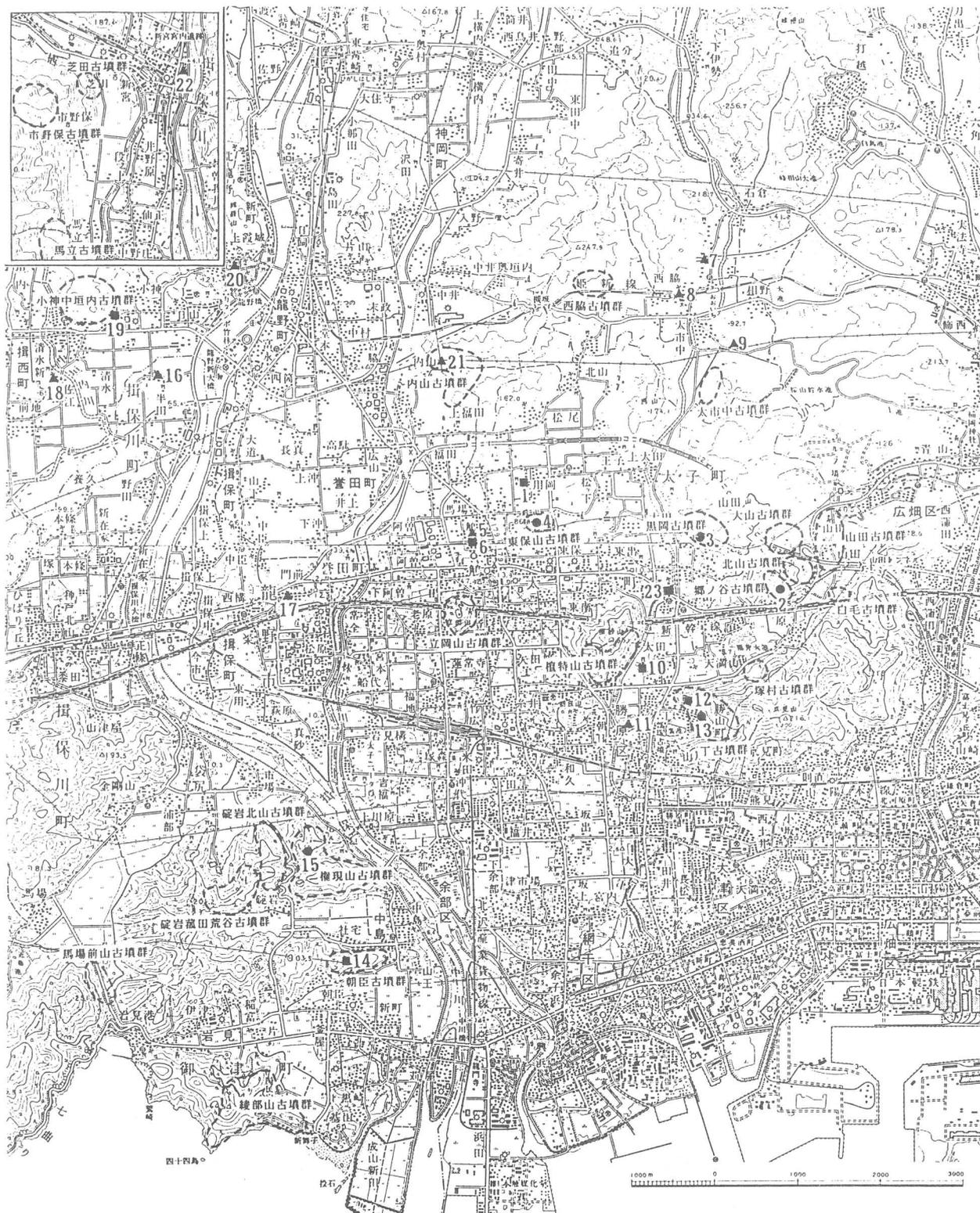
第 8 図 御津町朝臣出土環状把手付舟形石棺実測図

表 1 太子町内及周辺市町所在石棺地名表

	名 称	所 在 地	種 別	備 考
太 子 町	佐用岡石棺材 1	佐用岡字宮ノ本	組・底	橋材に転用 他の部材の可能性有り 教育委員会で保管
	” 2	”	組・底	橋材に転用 教育委員会で保管
	” 3	”	組・底	橋材に転用 教育委員会で保管
	郷ノ谷5号墳 1	原字郷ノ谷	家・蓋	断片 教育委員会で保管
	” 2	”	組・底	玄室内に埋戻し保存 上記遺物とセット?
	黒岡神社古墳	太田字八幡	組・家	玄室内に遺存 羨道側の小口石は失われている 県指定文化財
	黒岡神社境内 1	”	家・蓋	縄掛突起長辺各 2 県指定文化財 杯状穴
	” 2	”	組・底	3個に破損 県指定文化財
	斑鳩寺境内 1	鶴斑鳩寺	家・蓋	縄掛突起無
	” 2	”	剝・身	上半部欠損
旧 硯 橋 1	教育委員会	家・蓋	字前田の硯橋材に転用 教育委員会で保管	
” 2	教育委員会	組・底	字前田の硯橋材に転用 教育委員会で保管	
東保山3号墳	東保 東保山	箱・蓋	家形に加工 内面に朱が付着していた	
御 津 町	朝臣石棺	岩見315	船・蓋	阿蘇溶結凝灰岩 短辺に環状突起 内面に赤色顔料 町立歴史民俗資料館に保管 325(294)×97(最小75)×54(最小51) 内法256 ×76(最小55)×41(最小39)
	権現山27号墳	中島字鍛冶山	組・家	断片 玄室内に遺存 詳細不明
姫 路 市 西 部	破磐神社境内	西脇 破磐神社	剝・身	小型 境内西側で手洗鉢に転用 92×60×30 内法62×30×10
	専光寺境内	西脇 専光寺	剝・身	手洗鉢に転用 198×94×66 内法 166×70×36
	太市中墓地内	太市中	家・蓋	形骸化した縄掛突起が長辺片側に3個 全体に扁平 である 頂部平坦面はわずかに段を形成 引導台に 転用 現長 173×122×10 頂部平坦面幅54 高さ 1 内面短辺側に幅 8 深さ1.5 の溝

	名 称	所 在 地	種 別	備 考
姫 路 市 西 部	下太田石棺	勝原区下太田 字川田	家・蓋	縄掛突起無 吉備神社南約50mの橋材に転用 現在神社境内に移 設 178×96×24 内面に75×48×3の内刳
	丁石棺	勝原区丁字清水 保	家・蓋	縄掛突起無? 稲荷神社西南の農道で橋材に転用 頂部平坦面のみ露出 頂部平坦面 130×48
	丁石墓地内	勝原区勝山町	組・底	丁墓地内東側の石仏前に加工面を下にして供物台と して転用 杯状穴 100×58×16 両側に幅8深さ3長さ42~45の溝
	丁古墳公園内 (勝山町1号墳)	勝原区勝山町	家・蓋	二枚継ぎ 縄掛突起長辺各2 短辺各1 公園内西側の古墳玄室内に遺存 他の部材不明
揖 保 川 町	明覚寺境内 1	揖保川町半田 明覚寺	家・蓋	縄掛突起無? 半折? 現長70×121×24 頂部平坦面幅84 内面に幅78 深さ3の内刳
	〃 2		組・底	上記蓋材とセット 現長151×102×23 内面に幅74 高さ2の凸
龍 野 市	宝林寺境内	揖保町門前 宝林寺	組・底	石塔前の敷石に転用 2個に破損 隅部欠失 190×94 長辺幅20深さ2 短辺幅13~15深さ2の 溝 杯状穴
	照円寺境内	揖西町佐江 照円寺	刳・家	1898年中垣内の古墳から出土 蓋裏側に朱で意味不 明の文様が描かれていた 縄掛突起長辺各2 短辺 各1 手洗鉢に転用 蓋 205(201)×97(92)×36 頂部平坦面 151×48 内刳 170×57×3 身 195×86×63 内法 160×55 ×55
	竜野小学校石棺	大平一丁目 竜野小学校内	組・家 (蓋・底)	全側石は失われている 蓋材片側短辺端欠失 縄掛 突起長辺各2 短辺各1 内刳有り 校舎裏に保管 蓋現長180(復元205)×113(95)×28 頂部平坦面幅64
	小神石棺 2例	揖西町小神 市営火葬場内	家・蓋	付近で橋材に転用されていたものを圃場整備により 市営火葬場内に移設されたが現在所在不明
	内山石棺	誉田町内山	組・底	王子谷池西側竹藪内に所在 189×90×19 内面に155×70×3の凸
新 宮 町	新宮八幡神社境内	新宮町字元町 新宮八幡神社	家・蓋	半裁 縄掛突起長辺各2 短辺各1 現長111

※ 組=組合式 刳=刳拔式 家=家形 船=船形 箱=箱式 蓋=蓋石 底=底石 身=棺身  
法量=長×幅×高(深)単位はcm ( )内数値は縄掛突起を除いた値



※ ●原位置を保つ ▲転用もしくは原位置を移動している ■移転もしくは所在不明

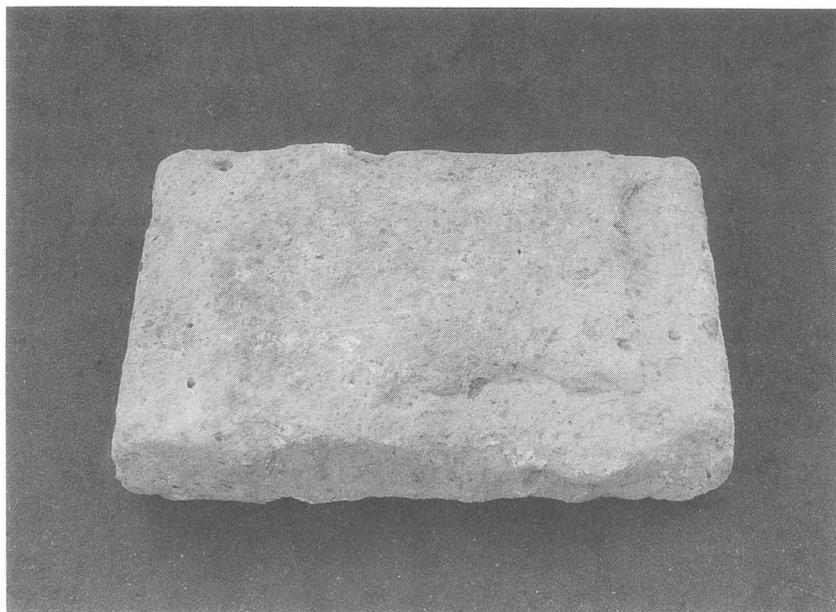
第9図 太子町・周辺市町所在石棺及び主要古墳群分布地図

- |                      |                 |                   |
|----------------------|-----------------|-------------------|
| 1 佐用岡・宮ノ本石棺材 (移転)    | 2 郷ノ谷5号墳 (一部移転) | 3 黒岡神社古墳・黒岡神社境内石棺 |
| 4 東保山3号墳             | 5 斑鳩寺境内石棺       | 6 旧硯橋石棺 (移転)      |
| 7 破磐神社境内石棺           | 8 専光寺境内石棺       | 9 太市中墓地内石棺        |
| 10 下太田石棺橋 (移転)       | 11 丁石棺          | 12 丁墓地内石棺         |
| 13 丁古墳公園 (勝山町1号古墳)   | 14 朝臣1号墳        | 15 権現山27号墳        |
| 16 明覚寺境内石棺           | 17 宝林寺境内石棺      | 18 照門寺境内石棺        |
| 19 龍野市営火葬場内石棺 (所在不明) | 20 竜野小学校内石棺     | 21 内山石棺           |
| 22 新宮八幡神社境内石棺        | 23 川島硯橋跡        |                   |

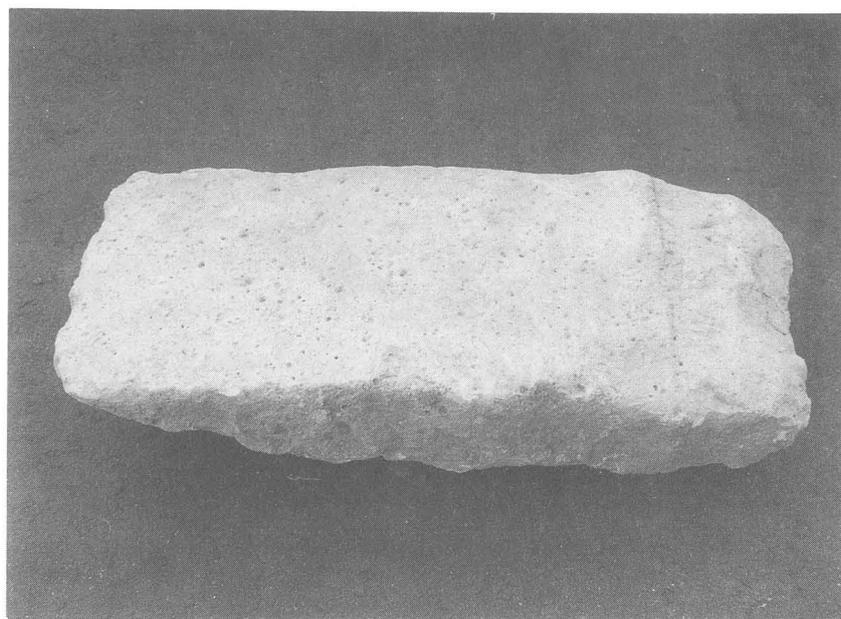
# 図 版



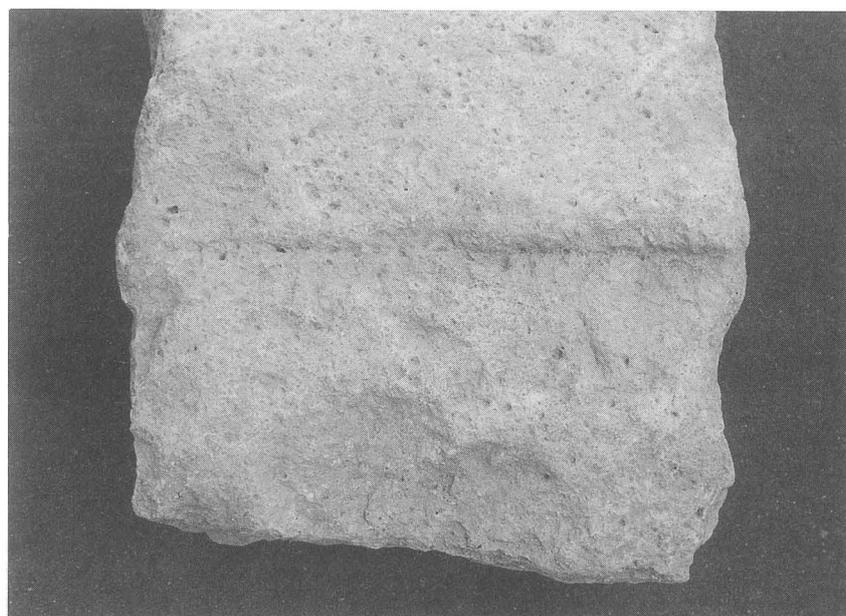
ありし日の下太田石棺橋



1. 宮ノ本石棺材 1



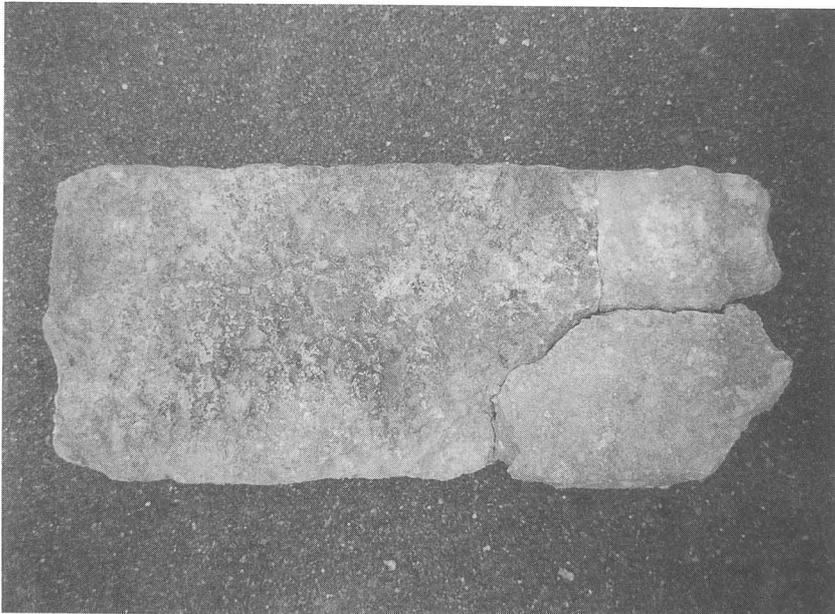
2. 宮ノ本石棺材 2



3. 宮ノ本石棺材 2  
加工部分



1. 宮ノ本石棺材 3  
転用時の状況（西から）



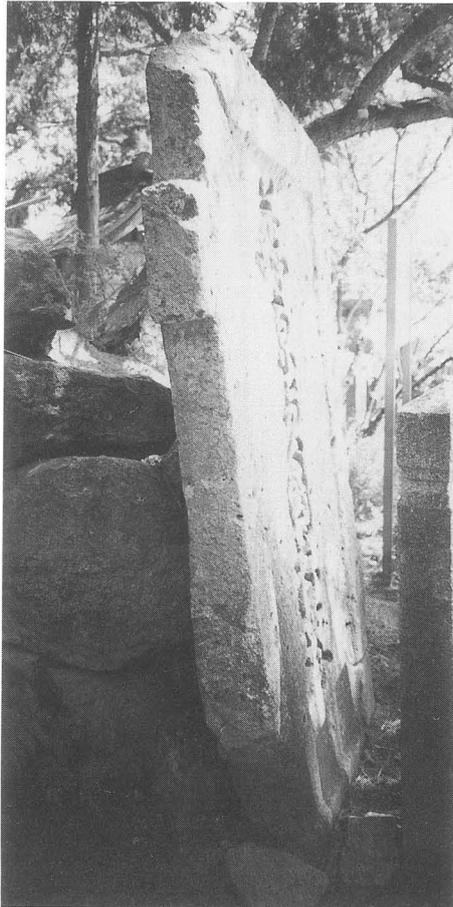
2. 宮ノ本石棺材 3



3. 宮ノ本石棺材 3  
加工部分



1. 黒岡神社古墳玄室内石棺



2. 黒岡神社境内石棺 1



1. 黒岡神社境内石棺 2



2. 斑鳩寺境内石棺 1



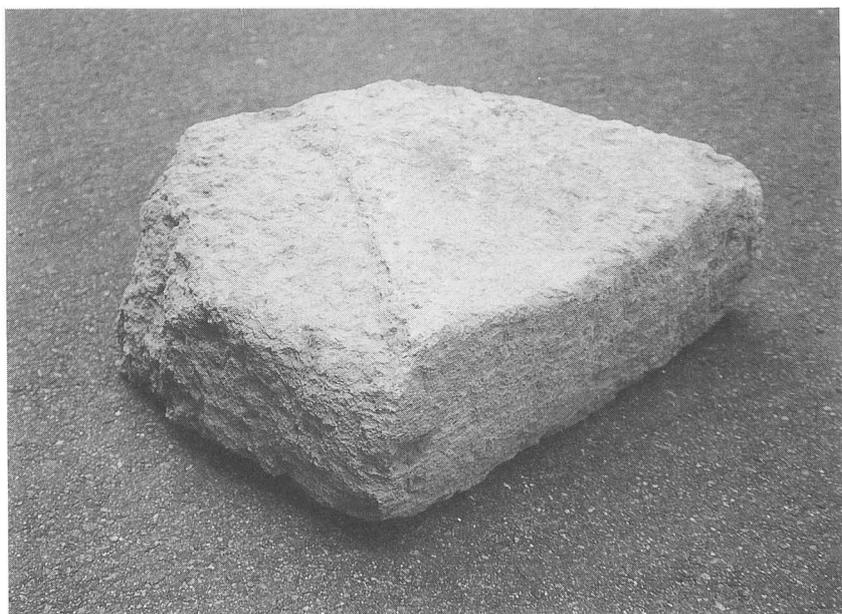
3. 斑鳩寺境内石棺 2



1. 旧硯橋転用石棺 1



2. 旧硯橋転用石棺 2



3. 郷ノ谷 5 号墳出土石棺

